

- ・イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづき、青少年と共に精神・知性・身体の全人的な成長を促す運動をします。
- ・人々との出会いを通じ、互いの人権を尊重し、生涯にわたって共に学び合う学習活動を展開します。
- ・地球的な視点から、望ましい環境の実現につとめつつ、いのちあるすべてのものがともに生きる平和な世界を築く運動を展開します。

東日本大震災復興支援特集号

特別寄稿

被災地の現在



現在の南三陸町歌津

あの日から早2年が経ちました。現在、私は支援対策室のスタッフとして仙台におりますが、当時は鳥取県米子市にあるYMCA米子医療福祉専門学校にいました。「大村さん！東日本で大変なことが起こったようですよ！」と駆けつけてきた教員といっしょにテレビの前で立ち尽くしていました。昨年の1月に広島Yから支援活動の応援として派遣されてまいりましたが、テレビで見た時の印象と、実際に降り立った空港の状況があまりにもかけ離れていて、被災地に派遣されてきたという実感がありませんでした。空港アクセス線で市内に向かう途中の景色も、海岸の埋め立て地にできた新しい空港のように思われ、やがて電車は繁華街のど真ん中の仙台駅に到着。駅前を歩く人は皆、広島と変わらない、いや広島以上に華やいた雰囲気にもものすごく違和感を覚えました。さて、被災地というと主に岩手・宮城・福島の3県を指しますが、2年目にはいり世間の関心、マスコミ

に、地元紙を中心とした新聞の震災関係記事を切り抜き、PDF加工したものを配信する作業を続けています。厳密な著作権の解釈には違法行為になりますが、お付き合いのある記者レベルでは、震災復興の非常時ということで「黙認」していただいています。(新聞社の取材も受け記事になりました)



現在の南三陸町戸倉

での扱いは「フクシマ」のみになっておりませんでした。さすがに地元紙の「河北新報」では毎日必ず何かの関連記事を読むことができますが、全国紙や他の地域のローカル紙では、今や震災関係記事＝原発関係記事のみになってしまいました。宮城、岩手では、ふとしたことで、「全国の人々は、ふたつと岩手は復興したと思ってるんだろな。」というこぼれをお聞きすることがあります。こうした状況を少しでも打破するために、現在仙台の支援室では全国の希望者



現在の南三陸町志津川

そうという物のみになっていっています。また、各住宅の跡地にも重機がはいり、コンクリートの基礎を打ち砕き更地にしていっています。仙台Yが震災以後寄り添ってきた被災地の多くは、現在、単なる荒地になっています。被災した建物が撤去され、更地になるということは、大きな流れの中では復興に向かっていますが、その更地が空き地のまま放置され、次にどうなるのかわからないところが寂しい限りです。こうした町の方向性が固まり、そしてなにより仮設住宅がなくなることで、復興のひとつの節目になるかと思っています。

現在、被災地にはスタッフの常駐するYMCA拠点3ヶ所があります。岩手県宮古市、宮城県石巻市そして仙台市。それぞれ成り立ちが異なり、活動の状況そして今後の展望も大きく異なっています。宮古のセンターは盛岡Yの管轄ですが、盛岡から車で2時間もかかる町で、日本キリスト教団宮古教会のご協力のもと運営されています。そこには大阪Yと横浜Yからスタッフが派遣され、まさに被災地のど真ん中で生活しながら支援活動を行ってられます。ここは、日々の生活が支援活動に直結しており、町の皆さんにYMCA運動を新たにご理解いただきながら、町の復興にあわせYMCAも育っていくことが期待されています。石巻は、当初、資材置き場やボランティアの準備場所として石巻の駅前に確保された拠点に2012年度より若いスタッフを派遣し、きめ細かくニーズの掘り起こしやボランティア活動の申し出をうまうま現場につなげることに力を注いでおられます。最後に仙台ですが、現在は主に4つの地域の皆さんとつながっています。南三陸町・石巻市・東松島市・山元町の4ヶ所です。それぞれ様々なことがきっかけで支援活動がスタートし、今も形を変えながらつながっています。一つひとつの動きは非常に小さいものですが、できるだけ長く寄り添って行けることを願っています。



仙台YMCA東日本大震災支援対策室 副室長 大村 裕司

京都YMCA被災者支援活動報告

京都YMCA震災被災者支援活動 記録

かつてないほどの災害規模となった東日本大震災から2年がたちました。被災地では、瓦礫の処分も進み、被災家屋や建物の解体も進められています。一見したところでは被災地とわからないように片づけられた土地が広がっています。しかし、人々は未だ仮設住宅に住み元の生活を取り戻す目途もたっていません。福島では原発事故の放射能の影響で未だに人々が不安な状態のままにおかれております。YMCAでは、今後も被災者の支援を長期的に続けていきますが、この2年間に京都YMCAとして行った被災者支援活動についてご報告させていただきます。



第4回復興支援ボランティア

被災地へのボランティア派遣

震災後被災地にはまずスタッフ及びボランティアスタッフを派遣し現地のボランティアコーディネートの支援をおこないました。その後京都でボランティアを募りボランティアバスを出して復興支援ボランティアを4回行いました。仙台、石巻、宮古それぞれのYMCAへボランティアを派遣しています。

2011年 4月3日(日)～10日(日) ボランティアスタッフ派遣(仙台YMCAを通じて仙台市の災害ボランティアセンターでのコーディネート支援)

4月18日(月)～23日(土) スタッフ2名、リーダー3名CA派遣(仙台YMCAを通じて仙台市の災害ボランティアセンターでのコーディネート支援)

6月13日(月)～18日(土)ボランティアビューロー専門委員派遣(仙台YMCAを通じて仙台市の災害ボランティアセンターでのコーディネート支援)

7月15日～18日 第1回復興支援ボランティア29名派遣(仙台YMCAを通じて宮城県亘理郡山元町でボランティアワーク)

7月26日～30日 中高生ワークキャンプで中学生4名、高校生1名、引率スタッフ1名派遣(仙台YMCAを通じて宮城県七ヶ浜町でボランティアワーク)

9月17日～19日 第2回復興支援ボランティア29名派遣(仙台YMCAを通じて宮城県亘理郡山元町でボランティアワーク)

12月2日～5日 第3回復興支援ボランティア32名派遣(仙台YMCAを通じて宮城県南三陸町にてボランティアワーク)

2012年 7月13日～7月16日 第4回復興支援ボランティア派遣15名派遣(石巻センターを通じて宮城県石巻市にてボランティアワーク)

10月26日～28日 YMCA宮古ボランティアセンターの「大人と子供のための読み聞かせの会」公演にボランティアビューロー専門委員2名を派遣

京都YMCA救援・復興募金報告

全国のYMCAと連動して震災直後から被災者支援活動のためのYMCA救援・復興募金を始め会員や市民に呼びかけ街頭募金及び窓口での募金の受付を行いました。その後もYMCAの受付窓口で募金箱をおいて募金を呼びかけました。多くの方が募金に協力してくださり、ご家族や、個人で多額の寄付をいただいた方をはじめとして多くの個人やワイズメンズクラブ、法人やグループなどから募金をお預かりしました。これまでの募金額と募金の使途をご報告します。

(2011年3月～2012年12月末時点)

これまでに寄せられた募金額合計 31,779,097円

内 訳 募金箱・街頭募金額合計 1,208,678円 個人団体寄付合計 18,460,046円

ワイズメンズクラブ寄付金額合計 10,076,961円 海外からの募金額合計 1,387,263円

被災YMCA支援募金合計 646,149円

これまでの救援活動に使った募金額 22,529,521円

内 訳 日本YMCA同盟を通じての被災地支援 18,476,117円

京都災害ボランティア支援センターへの募金 100,000円 支援物資送付費等 68,683円

スタッフ及びボランティアの被災地派遣 2,249,628円 避難者支援プログラム 187,068円

避難者子弟の夏のキャンププログラム参加費補助 545,000円

被災YMCAへの支援 633,025円

繰越金額 9,519,576円

京都への避難者の支援活動

震災後京都府には多くの避難者を受け入れました。特に福島県からの避難者を多く受け入れ、放射能の影響を避けて自主避難者も多くこられました。京都YMCAではそれらの避難者に対して物資の提供協力やプログラム協力、避難していることもたちのYMCAプログラムへの受入れを行っています。

2011年 4月29日(祝) 京都へ避難している被災者へ、京都の大学生グループが集めた家具・家電等を配送協力

8月7日(日) リトリートセンターで京都に避難してきている被災者対象に「ファミリーデイキャンプ」を実施 避難者35名の参加者

7月～8月 夏期キャンプに震災被災者の子どもも受入 約20名

11月23日(祝) リトリートセンターオータムフェスタに京都に避難している被災者を招待。50名の方々が参加。避難者による東北の辛肴を出店

11月～12月 避難者家族支援のために暖房器具を市民より集めて提供。27点の暖房器具と暖房器具代の寄付が集まり、避難者へ届ける。

1月～3月 冬期・春期プログラムに避難者の子どもも受入れ

2012年 7月29日～8月1日 避難者と被災地に残ることもたちとその家族の同級生再生会プロジェクト「こどもたちの夢の夏プログラム」に協力し、実行委員会に参画。当日ボランティアスタッフを派遣協力

7月21日 京都橘大学主催「福島・山科親子キャンプ」に協力し、1日を京都YMCAが受け持ちプログラムを実施

7月～8月 夏期キャンプに震災被災者の子どもも受入

11月25日 リトリートセンターオータムフェスタに福島からの避難者を招待



被災直後風景

物資の支援

震災後初期の段階では、支援物資及び被災者支援活動に必要な物資を被災地のYMCAに送りました。

2011年4月 京都YMCAの公用車(ステップワゴン)を仙台YMCAボランティア支援センターの活動用に寄贈



ファミリーデイキャンプ

2011年9月 仙台YMCAボランティア支援センターへ子供用体操服上下を送り被災地の小学生に届ける。

2011年7月 東京YMCAの行っているランタンプロジェクトに協力して単1乾電池を集め送る。



被災直後風景

「震災2年目を迎える 県外避難者の現状とこれから」

避難者と支援者を結ぶ京都ネットワークみんなの手

代表 西山祐子

3度目の3・11が過ぎようとしています。昨年12月末に福島県からの県外避難者の新規受入が終了し、新学期を前に、数名の家族が茨城県や宮城県そして福島県へ帰還し、父親が現在の仕事をやめ京都に移住することを決断した家族もあらわれます。避難者それぞれが少しずつ自らの道を歩みだしています。

2012年6月21日に「原発事故子ども・被災者支援法」が議員立法で成立しました。これは、福島第一原発事故の影響を受けた被災者に、避難・居住・帰還を自ら選択させ、国が適切な支援をしていくものです。現在、具体的施策および予算などの枠組みが整えられようとしています。

避難者にとって、無償住宅提供、就労支援、家族と会うための交通費補助(高速道路無料化)が何より望まれることとすし、支援対象地域の居住者には、被爆を防ぎ心身ともに健康な生活ができるような施策を講じる(子どもたちには学校のクラス単位で疎開する「移動教室」や長期休暇を利用するの自然活動教室等の補助)が望まれます。そして、支援対象区域の枠組にとらわれず、有料でも大人も子供も甲状腺検査を受診できる体制作りをすること等、全てに予算が早期に策定されるよう願っています。

みんなの手は、これまで、京都YMCAや他の支援団体とともに実行委員会を結成し、夏と冬に京都福島のバスを運行して避難者が家族と再会するための支援や、避難している子どもたちの友達を福島から招待して室外で思い切り遊んでもらうためのプロジェクトを行っています。また、医療機関と連携して甲状腺検査の実施等を行い、定期的な検査を実施できる体制作りをお願いしてきました。これから避難者の就労支援の目的も兼ねてカフェをオープンします。国が支援法という枠組みで原発事故被災者を支援しようと動き出した中で、私たちは、今度も避難者のニーズに合わせたサポートをスピード感もちなが実現していこうと思っています。今後ともみなさまのご協力とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

チャリティーピアノコンサート

1月25日(金)に京都府立文化芸術会館大ホールで Arico『Letter』と題したチャリティーピアノコンサートが開かれました。

このコンサートは毎年インストラクターの Y M C A がサポートしているハンセン病患者コミュニティの支援金と京都 Y M C A の公益活動寄付金を集めるために行われているものです。

今回は、FM 京都 (FM Station) の金曜夜の番組を担当しておられるピアノの山下有子 (Arico) さんのピアノコンサートとして行われました。当日は金曜日の6時半からの開演という早い時間ではありましたが、161名の聴衆が Arico さんのピアノ演奏に耳を傾けました。

第1部は神崎総主事のあいさつの後、日本の美しい風景と題して早春賦や月の砂漠などおなじみの曲の演奏から始まり辻仁成監督の映画「千年旅人」オリジナルサウンドトラックに収録されている曲が演奏されました。

休憩を挟んで2部は、岐阜県白川郷の合掌造りや四季の風景が舞台の背景に映し出される中で、白川郷ストーリーという即興演奏で始まりました。

続いて、今回の実行委員で Arico さんをよく知る日本画家の坂井昇さんが舞台上で「恋する心は何処から?」と題

したトークの時間があり、アーティストとして対象に恋して生まれてくる作品や、違うジャンルのアーティストの作品に影響を受けて作品が生まれるプロセスについてトークが繰り広げられました。その後、発売された CD「二人のピターストレージ」に取られているオリジナル曲が続いて演奏され、観客の皆さんは Arico さんの弾くピアノの世界に引き込まれていました。

京都 Y M C A 創立 124 周年記念 会員集会報告

「若者が育つ関係性豊かなコミュニティを目指して」と題して、京都 Y M C A の元職員で現在広島修道大学人間環境学部准教授の西村仁志氏の講演会が2月9日(土)京都 Y M C A のマナホールにて創立124周年記念会員集会として行われました。西村氏が、同志社大学大学院



創立記念会員集会

の総合政策科で指導してきた大学院生による京都の丹後地域の棚田の復活をきっかけにした過疎地の地域おこしの取り組みや地域の特性を活かして青年たちが地域の活性化させた宮古島での取り組みなどの事例を紹介して、若者が中心となって周りの人を動かす形で地域が変わり、地域コミュニティが再生していく過程をプロジェクトの画面を用いて解説され、その後の質疑応答でも質問が続き、参加者は少なかつたものの参加した会員からほつと多くの人が聞いてはかったという声が出ていました。京都 Y M C A が今後、公益法人として若者をどう育て、地域の活性化を進めるのか示唆に富んだ話でした。

車いす駅伝競走大会のサポート

2月17日(日)今年も全国から28チームが京都に集まり第24回全国車いす駅伝競走大会が都大路を舞台に繰り広げられました。

今年は、スタート地点の宝ヶ池の国際会館のあたりでは昨日積もった雪がまだ溶けずに残っている中でレースは行われました。

京都 Y M C A が加盟しているユース21大会が第1回大会からこの大会の主催者として名を連ね運営の一部を担当していることから京都 Y M C A もユース21京都の加盟団体としてこの大会

に協力しています。ユース21京都は、ボイススカウトやガールスカウト、日本赤十字社や京都曹洞宗、立正佼成会京都教区、裏千家淡交会、京都サイクリング協会他17の京都の諸団体の青年組織が構成している団体です。それらの諸団体からの総勢500名近くのボランティアが役割を分担して運営にあたっています。大会当日のボランティアとして京都 Y M C A からワイズメンスクラブのメンバー10クラブから約90名が参加し、朝早くから選手の中継所までのバスへの乗車介助、駅伝の各中継所に帰る選手団の送り出しなど他の諸団体のボランティアと協力してボランティアを行いました。

国際協力フェスティバル

2月3日(日)三条本館を使って国際協力フェスティバルが行われ、当日の収益金の116190円が国際協力募金として捧げられました。感謝。



2月3日国際協力フェスティバル

Information

第9回京都 YMCA かもがわチャリティーラン

第9回を迎える身心に障がいのある子供たちのためのかもがわチャリティーランが今年も5月19日(日)に出雲路橋西詰北側の鴨川公園を中心に行われます。



競技種目は例年と同じく クォーターマラソン、一般駅伝、ペアラン、小学生駅伝、グループランの5種目です。今回から全国YMCAインターナショナルチャリティーランの大会実行委員長にオリンピックの女子マラソンのメダリスト有森裕子氏が就任されました。

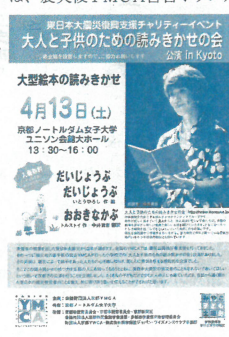
多くの方の参加とまた運営を支える協賛金と協賛品の提供をお願いします。申し込みは、4月20日締め切りです。詳細は、<http://kyotoymca.or.jp/c-run/> まで

「大人と子供たちのための読みきかせの会」公演 in Kyoto

東日本大震災から2年を経て被災地のことが人々の関心から遠くなっていきますが、被災地ではまだまだ生活のめど立たないまま仮設住宅での生活を余儀なくされている人々や心の傷の癒えない多くのの方がいます。京都 YMCA では、震災後 YMCA 宮古ボランティアセンターの企画で宮古市の小学校で公演を行ってきた女優の中井貴恵さんが代表の大人と子供のための読み聞かせの会の公演を復興支援チャリティーイベントとして京都ノートルダム女子大学で行います。

多くの方に読み聞かせの持つ力を感じていただくとともに被災地のことをもう一度思い起こし心を寄せていただきたいと思いご来場をお待ちしています。

日時：4月13日(土) 午後1時30分～午後4時
会場：京都ノートルダム女子大学 ユニソン会館大ホール
入場料：無料 (YMCA 東日本大震災救援・復興募金の協力呼びかけです。)
URL <http://kyotoymca.or.jp/?p=1411>



読み聞かせ